

事例2
社会

かわいだ ゆうこ
川井田 優子 さん
(指導者)

きした つぎお
木下 次男 さん
(指導者)



「鹿屋てのん塾」(鹿屋寺子屋事業)



▲分からないところがあれば積極的に指導者に聞きにいきます。

毎週水曜日の午後3時から午後6時まで、リナシティかのやで子どもたちの自学自習を見守っています。

参加しているのは、鹿屋小学校に通う1〜6年生の約20人の子どもたち。部屋に入ってきたら、まず学校の宿題を始めます。宿題が終わったら、持参したドリルを解いたり、読書をしたりするなど、それぞれが思い思いの時間を過ごします。

私たちは、必要に応じた助言や本の読み聞かせなどを行っており、子どもたちも一生懸命取り組んでくれるので、とてもやりがいがあります。また、当初は緊張していた子が、少しずつ環境に慣れて集中して学習に取り組むようになるなど、一人ひとりの成長を感じられるのも楽しみの一つです。

「SDGs」のマークを見たことはありましたが、内容は知りませんでした。私たちの活動が世界の目標につながっていることを知り、うれしく思います。今後も楽しみながら続けていきたいです。

楽しみながら
続けていきたいです

地域の魅力を知り、地域の方々と触れ合うことで、コミュニケーション能力の向上や郷土愛の育成にもつながるので、色々な所へ連れて行って、様々な体験をさせてあげたいです。



▲森林教室



▲野鳥の観察

勉強だけでなく、地域の方々の協力を得て毎月1回行っているのが体験学習です。勾玉作りや絵手紙教室、スポーツ吹き矢や森林教室など、その内容は多岐に渡っており、子どもたちは楽しんで参加してくれています。

住民の力を借りて
地域の魅力に触れる



▲分娩監視・発情発見システム

畜産に欠かせない子牛の出産についても、働き方が変わりました。常に目が離せないのが、以前は牛舎の通路や車の中で夜通し待機していましたが、現在は牛舎内にカメラと温度感知器を設置しており、家にいながら母牛の状態を確認することができます。

ICT技術の活用

3年目から冬のボーナスでは、現金が牛1頭のいずれかを選ぶことができます。牛を選んだ場合、他の牛たちと同じ敷地内で育てますが、管理は全てその従業員に任せます。やがて牛が育ち、せり市で付いた売値がそのまま従業員の収入になるという仕組みです。

やればやっただけ結果として自分に返ってくるので、みんな一生懸命になりますし、高い意識を持って取り組んでくれます。



▲牛舎内の様子はスマートフォンでも確認することができます。

体温の下降や破水の際にはスマートフォンにメールが届く仕組みになってるので、的確なタイミングで出産のサポートができるようになり、働きやすくなっただけでなく、死産も大幅に減りました。

正しいことと知り
自信につながりました

「SDGs」という言葉を聞いたことも、マークを見たこともありませんでした。取材を受けて、普段行っていることは正しかったんだということを知り、とても自信につながりました。

数ある職場の中から私の会社を選んできたので、従業員が「ここで働いてよかった」と思える職場にできるように、これからも頑張りたいです。

事例1
経済

かみべつぶ みゆき
上別府 美由紀 さん
(畜産農家・串良町上小原)



2 食料供給に欠かせない
地域農業の振興

10年程前から、女子大生を研修生として受け入れています。研修生はそれぞれ違った視点を持っており、逆に私が学ばせてもらうこともあります。個人的に研修依頼を受けることもあり、研修を受けた中の1人は現在社員として働いています。研修を通して、一人でも多くの人が畜産に興味を持ってくたたらうれしいです。

5 ジェンダー平等を
推進しよう
女性の活躍を後押し

個人事業主として4人の従業員を雇用しており、そのうち3人が女性です。女性を多く雇用している理由は、女性特有の目線や気配りが畜産業に向いていると思ったからです。実際に、牛の微妙な変化など細かいことによく気が付くので、とても助かっています。

従業員が着替えやすいように敷地内にロッカー室も設置しています。将来的には託児所を整備して、小さい子どもがいるお母さんでも働ける環境にしたいと考えています。

畜産は男性のイメージが強いかもしれませんが、女性でも輝けることを知ってもらいたいです。

8 働きやすさと
働きがいの追求

従業員の勤務時間は8時から17時30分まで。1日2回の給餌があり、以前は2回目を16時に始めていたため、帰宅できるのは18時30分ごろでした。現在は、14時には2回目を始め、全員が定時で帰れるように工夫しています。

また、従業員がやりがいを感じられるように工夫しているのがボーナスの支給方法。年2回の支給のうち、入社